特別インタビュー

三共毛織株式会社 × 東京都葛飾福祉工場

代表取締役 正村 策三

※敬称略

毛布の果たす使命とは?

<<<心身共に疲れ切った体を温める事>>>
<<<柔らかい風合いで、暖かく快適である事>>>
<<<高い難燃性である事>>>

1 三共毛織株式会社・事業概要

葛飾　御社の事業概要をお聞かせください。

正村　昭和29年赤松市一が大阪府和泉市で毛布製造業を創業しました。令和2年5月に正村策三が先代:赤松正樹(現会長)から引き継ぎ、5代目代表取締役に就任しました。

主に株式会社カネカ製(旧鐘淵化学工業株式会社)のアクリル系繊維カネカロン®を使用した難燃毛布の製造販売を展開しております。主な用途は病院寝具、ホテル旅館、船舶、少年自然の家等の業務用毛布。更にそこから防衛省、海上保安庁、PKO、JAICA、交通機関(新幹線、JRバス、私鉄バス、航空機)、カフェテリア、映画館等、最も「安心・安全・安定供給」が必要な場面で使用される毛布を製造して参りました。並行して防災用の用途でもかなりのシェアを持っております。その全ての使用シーンにおいて、カネカロンの難燃繊維を使用した防災製品の品質の確かさと、業務用毛布を60年以上製造してきたノウハウが生かされているものと自負しております。更には、防災用毛布を再利用するリパック(クリーニング&真空パック加工)・ウール毛布・他生理用品。オムツ等のパック販売もしております。

2 災害用毛布の開発の経緯

葛飾　御社の主力商品である難燃毛布「カネカロンシリーズ」の開発のきっかけや歴史をお聞かせください。

正村　カネカロンは繊維そのものが難燃性を有します。後加工による防炎製品とは異なり洗濯回数を増しても難燃性が劣化する事はありません。通常の非防炎の毛布とは異なり防炎薬剤が排水に溶けて流れ出す事が無く安心・安全な繊維です。

火を受け入れられない避難所、公共施設、交通機関等にも当然要求されます。そのニーズを満たすためにも防炎製品が必要であると考え、弊社はいち早く難燃性の毛布を開発致しました。

毛布の生産地である大阪泉州地域の中でも、弊社は難燃毛布の先駆者であると自負しております。カネカロンの難燃性は他素材とは異なり燃焼後、炭化します。他素材、特にポリエステル繊維は燃焼後

三共毛織株式会社 正村 策三

炎滴となって燃え落ちます。そんな時、炎滴の下に可燃物が有れば更に燃えてしまいます。また人に炎滴が落ちれば大火傷を負う事になります。その燃焼の挙動がポリエステル難燃繊維と大きく異なる所です。

その特性を鑑みて世界の航空機用ブランケットは圧倒的にアクリル系繊維が主に使用されています。その観点から弊社は敢えてアクリル系繊維(カネカロン)防炎製品に拘ります。

3 阪神・淡路大震災の記憶

葛飾　阪神・淡路大震災での出来事をお聞かせください。

正村　震災があって、昼頃、神戸市役所から連絡が入りました。「あるだけの毛布が欲しい」と。明治以降、毛布の街として発展した泉大津から、10数台のトラックが神戸に向かう事になりました。三共毛織株式会社はトラック2台分の毛布を用意し、17日の午後6時頃、その集団の先頭に立って、泉大津市を出発しました。

途中までは大阪府警が先導してくれました。県境から先は兵庫県警が先導してくれました。

兵庫県へ向かう道は国道2号線と国道43号線の2本あります。国道43号線は阪神高速の真下を通っている線です。2号線は大渋滞、43号線にまわると、橋が落ちていました。ところどころに大きな段差ができていました。普段は陸路で1時間程度の道のりを12時間かけて、ようやく神戸市役所に着きました。

その途中に見た光景は忘れられません。1月17日は真冬。外はとて

も寒い。
当日の晩は、充分な避難所もまだ設営されていません。そんな中、毛布を被りながら、血を流しながら、道路脇へ出てきている人たちをたくさん見ました。あちらこちらでたき火をしている人たちを見かけました。火のそばで呆然としている人たちがいました。
難燃毛布の必要性を強く感じた瞬間でした。

4 災害時の難燃毛布の役割

葛飾　災害時の毛布の役割について、お聞かせください。
正村　●先ずは保温性を追求します。心身共に疲れ切った体を温めます。
●MADE IN JAPANによる安心安全を与える製品である事。
●皮膚に直接当るため柔らかい風合いである事が要求されます。更に多くの海外製とは違い、ホルマリンを極力抑えた製品である事。
●防炎機能が安定している事。
●自己消火をして周りに燃え移らない事。
●最近ではコンパクトが要求されます。コンパクトで、且つ毛布の使命を果たす事が出来る商品である事。

5 難燃毛布（製品）に対する社会的な評価

葛飾　難燃毛布（製品）に対する社会的な評価が上がってきたのでは?
正村　評価が上がったというよりも防炎製品が当たり前の時代だと思います。これだけ震災が頻発し、台風等が起こる状況の中、避難所で使用する毛布に関しては、非防炎の製品は考えにくいと思います。ここ最近はコンパクトタイプの毛布が要求され弊社もその商品を開発しました。平成29年2月6日に弊社生産の災害用備蓄毛布「カロンエコ®超コンパクト」が平成28年度大阪府『新商品の生産等による新事業分野開拓事業者認定事業』により「認定事業者・新商品」として認定されました。ただコンパクトだけでなく、日本製品の「安心・安全・安定供給」と良き風合い、肌触り、使用して気持ちの良い商品として認めて頂いた事だと思います。
今後は、この商品に違う付加価値を付けてMADE IN JAPANの素晴らしさを益々周知して行きたいと考えます。その事で益々社会的に好評価が頂けるものと確信致します。

6 環境への取り組み

葛飾　環境への取り組みをお聞かせください。
正村　弊社は最近開発された超コンパクト毛布を含めてエコ認定を取得した毛布を提案します。今後の地球環境の変化を考慮すれば、最低でもグリーン購入法適合商品を開発するべきだと考えます。従って環境を考慮した毛布作りを目指します。また一方で、新しく毛布を生産するだけではなく、再利用によって環境破壊を無くす事を提案します。使用された毛布を洗濯し、新たに真空パックする事です。ここ最近では地球温暖化の影響により台風が大型化しています。それに加えて九州、四国、中国、関西、東海から関東、東北、北海道まで縦断する様になりました。そういう点では今後リパックのニーズが益々高まる事でしょう。そこは毛布生産会社の使命と想い、新しい毛布の生産と併せてその態勢も確立して行きます。その為には、リユース出来る丈夫な商品でなくてはなりません。
最近では「不織布=洗濯すれば破壊される様な毛布」も出回っています。結局当初は安く購入したかの様に思いますが。一回の使用でその後使えない毛布は、安いようで結果、高い商品と言えるでしょう。そしてそれは環境に優しいとはいえません。毎年製品を生産する事により環境破壊をしている事にほかなりません。そうならない為にも、弊社はコンパクトであっても洗濯に耐え得る丈夫な毛布を提案します。

大阪府の「新商品の生産等による新事業分野開拓事業者認定事業認定証」

7 インタビューを終えて

明治時代から毛布の街である泉州。三共毛織株式会社はその代表する会社である。
カネカロンの難燃繊維を使用した防炎製品の品質の確かさと、業務用毛布を60年以上製造してきたノウハウを生かす事を使命としている。フリース毛布や不織布毛布など、軽量で低価格の毛布の市場が増えつつある。しかしその中には、一回の使用で洗濯すれば破壊され、その後使えない毛布がある。たき火に近づいたら簡単に燃え移ってしまう毛布もある。重要なのは、毎年多くの製品を生産する事よりも、洗濯に耐え得る丈夫な難燃毛布を作る事。しかし、それでは売上を落とす事になる。三共毛織株式会社にとって、採算は最優先ではない。環境への配慮、そして何よりも大切に考えているのは、被災者にとっての安らぎであり、安全なのである。それを使命とする企業なのである。

カロンエコ毛布（P90）
カロンエコ超コンパクト（P90）